

リケンテクノス株式会社
2013年3月期 第2四半期
(2012年度 上期)
決算説明会

2012年11月22日

- 会社の概要について
- 決算概況について
- 今後の展開について
- 中期経営計画について
- 株主還元について

会社の概要について

社名 **リケンテクノス株式会社**

設立年月日 **1951年（昭和26年）3月30日**

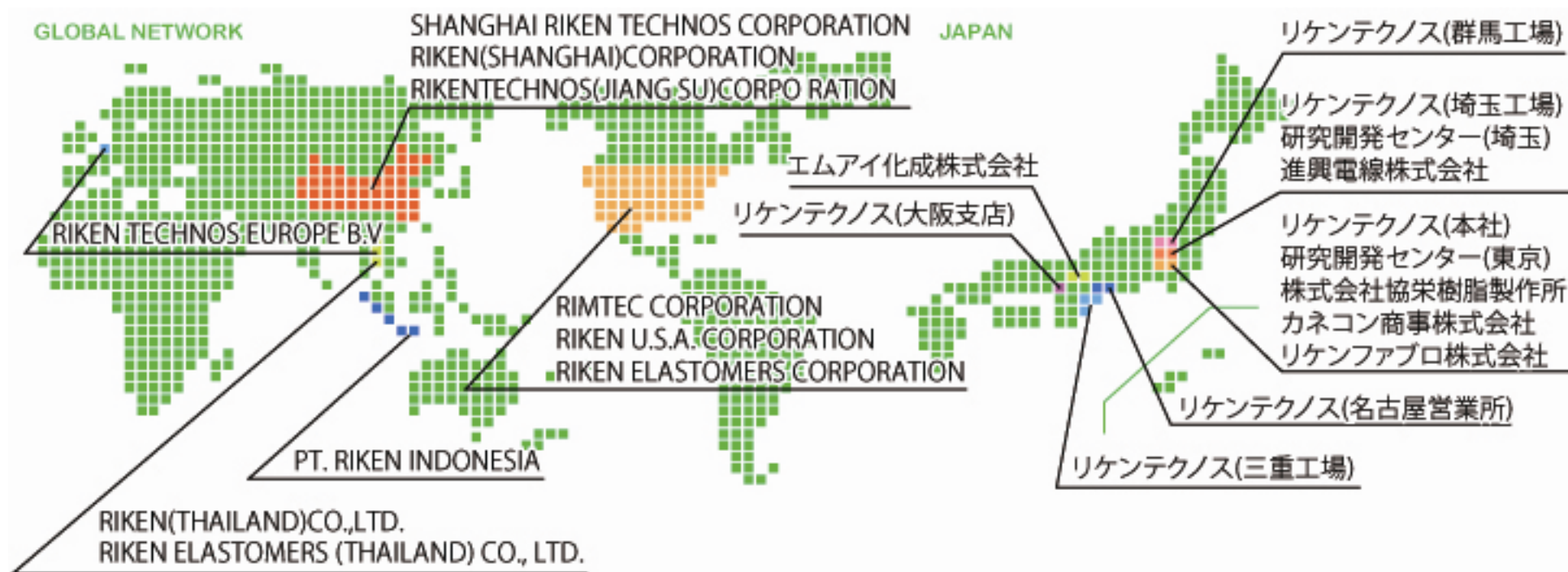
資本金 **85億14百万円**

代表取締役 **清水 浩**

従業員数 **771名**

本社所在地 **東京都中央区日本橋本町3丁目11番5号**

拠点



海外関連会社： 10社

国内生産拠点： 3ヶ所

国内関連会社： 5社

コンパウンド事業の概要

コンパウンドとは、塩ビ他のベース樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材で、粒状の形状をしています。押出成型や射出成型に使われます。



日用品(消しゴム)



建材(断熱内窓サッシ用)



半導体関係の包装資材用

コンパウンド事業の概要

生産拠点は、国内に埼玉・三重の2工場に加えて子会社が1社。

海外は子会社としてタイに2社、米国に2社、インドネシアに1社、中国に1社あり、客先ニーズに合わせてグローバルに展開しています。



自動車内装・外装用(シートベルト、シフトレバー、モール、グロメット材など)



電材用(電線、ハーネス、パワーケーブルなど)



医療・食品用
(チューブ、キャップライナーなど)

フィルム事業の概要

顧客のニーズに合わせて樹脂の配合・設計を行い、独自の加工技術で高品質のフィルム製膜を行っています。

また複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に機能性材料をコートすることによって意匠性や機能性を付与したフィルム製品を製造しています。



建材用(キッチン扉、家具、ドアなどの表面化粧材)



鋼板用(冷蔵庫扉、ユニットバス壁面表面化粧材)

フィルム事業の概要

生産拠点としては、国内の埼玉・三重・群馬の3工場があります。

販売拠点としては、米国、欧州、中国にそれぞれ子会社があり、海外顧客に対応しています。



ステッカー、広告・宣伝用マーキング用



ガラス用(建築、車用)



AQUATECT®(親水フィルム)



自動車内装用加飾フィルム

食品包材事業の概要

10月に三井化学ファブロを子会社化し、リケンファブロとして事業統合を行っています。

ラップ以外にもクッキングペーパーなど多様な商品構成となりました。

海外展開としては、中国の子会社で塩ビラップの生産・販売を行っています。



決算概況について

1. 売上の低迷

個人消費の伸び悩みによる家電用途の低迷
復興需要の遅れによる建材・電材の低迷

2. 自動車生産の回復

需要を国内外で確実に捉え、自動車関連の売上増加

3. 中国経済の減速

長引く欧州の景気低迷をうけた中国経済の減速、
インド経済の減速

4. 自然災害からの復興の影響

- ①東日本大震災：復興需要が本格化せず
- ②タイ大洪水：生産復旧は完了するも、売上回復には至らず

2012年度 上期の売上、利益の要約

単位：百万円、円

科 目	2012年度 上期	2011年度 上期	前期比	増減率	2012年度上期 業績予想	達成率
売上高	35,296	38,186	▲2,890	▲7.6%	36,000	98.0%
売上総利益	4,803	4,797	+6	+0.1%	—	—
営業利益	1,071	1,106	▲35	▲3.2%	1,100	97.4%
経常利益	1,060	1,125	▲65	▲5.8%	1,200	88.3%
当期純利益	871	1,154	▲283	▲24.5%	950	91.7%
1株当り利益	14.41	18.90	▲4.49	▲23.7%	15.72	91.7%

2012年度 上期の地域別売上

単位：百万円

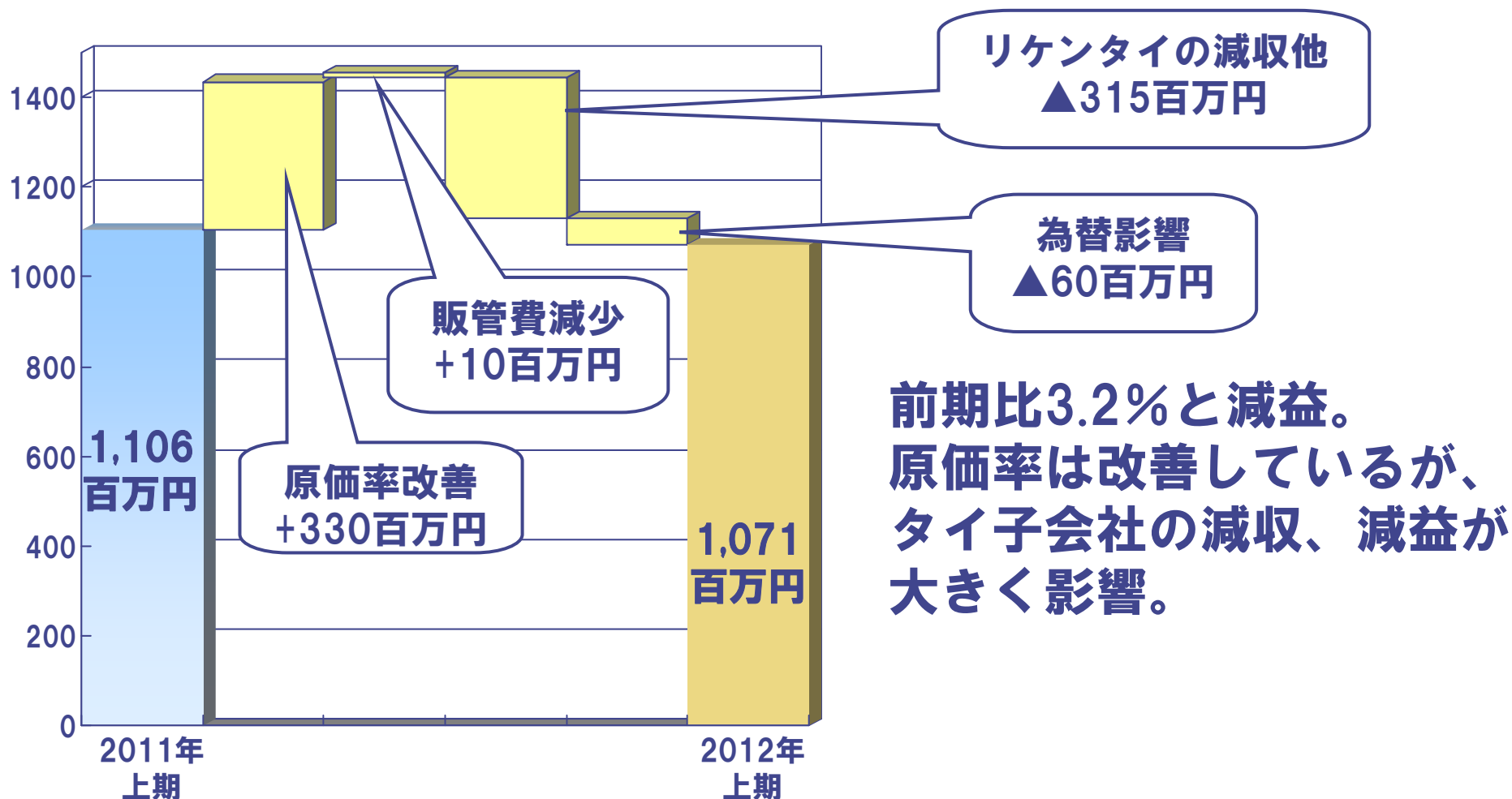
科 目	日本	アジア	北米	欧州	その他	計
2012年度 上期						
売上高	21,561	8,362	4,141	1,097	135	35,296
2011年度 上期						
売上高	22,915	10,199	3,577	1,416	79	38,186
前期比較						
売上高	▲1,354	▲1,837	+564	▲319	+56	▲2,890

- ・北米では自動車関連が好調で、前期に比べ売上高が増加している。

営業利益の増減要因分析

営業利益

35百万円減 前期比3.2%減



前期比3.2%と減益。
原価率は改善しているが、
タイ子会社の減収、減益が
大きく影響。

連結貸借対照表

現預金等 +4,068
 売上債権 ▲293
 有形固定資産 +1,047
 投資有価証券▲396

資産合計

66,551 百万円

前期末比 4,535百万円増

流動資産 41,623百万円

固定資産 24,927百万円

負債合計

30,695 百万円

前期末比 3,944百万円増

流動負債 24,333百万円

固定負債 6,362百万円

借入金 +4,434
 仕入債務 +177
 未払金（設備等）▲566

純資産合計

35,855 百万円

前期末比 591百万円増

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科 目	2012年度 上期	2011年度 上期	前期比	増減率
営業キャッシュ・フロー	3,033	1,633	+1,400	+85.7%
投資キャッシュ・フロー	▲2,989	▲628	▲2,361	—
財務キャッシュ・フロー	4,007	▲462	+4,469	—
現金同等物の増減額	4,117	515	+3,602	+699.4%
現金同等物の四半期末残高	11,795	9,454	+2,341	+24.8%

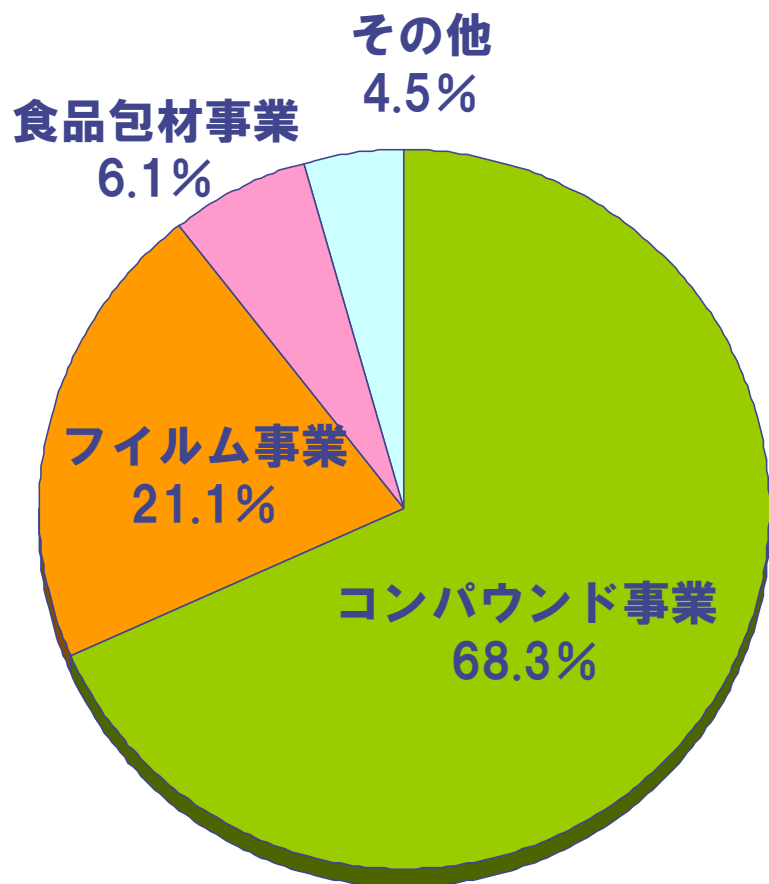
営業CF : 当期純利益、減価償却費、保険金の受取

投資CF : 設備投資の増加

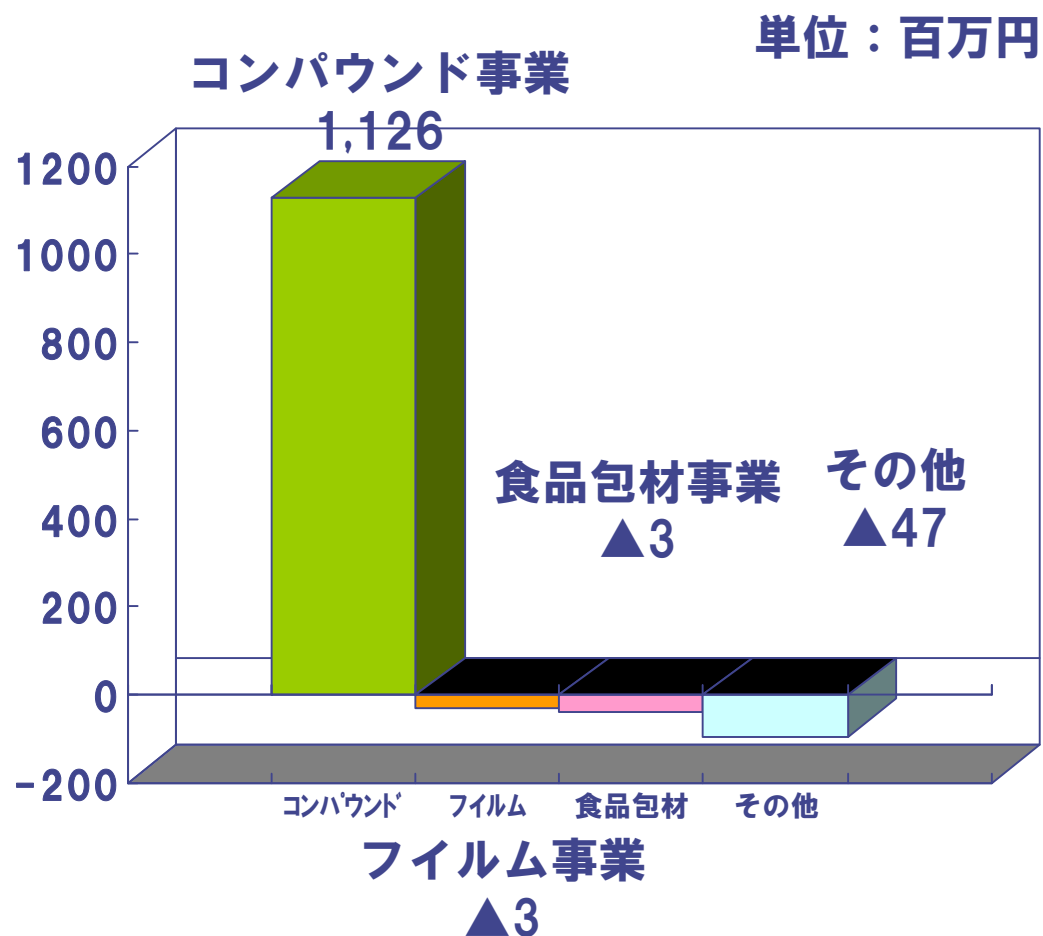
財務CF : 株式取得等に備えた借入金の増加

セグメント別売上高構成比及び利益

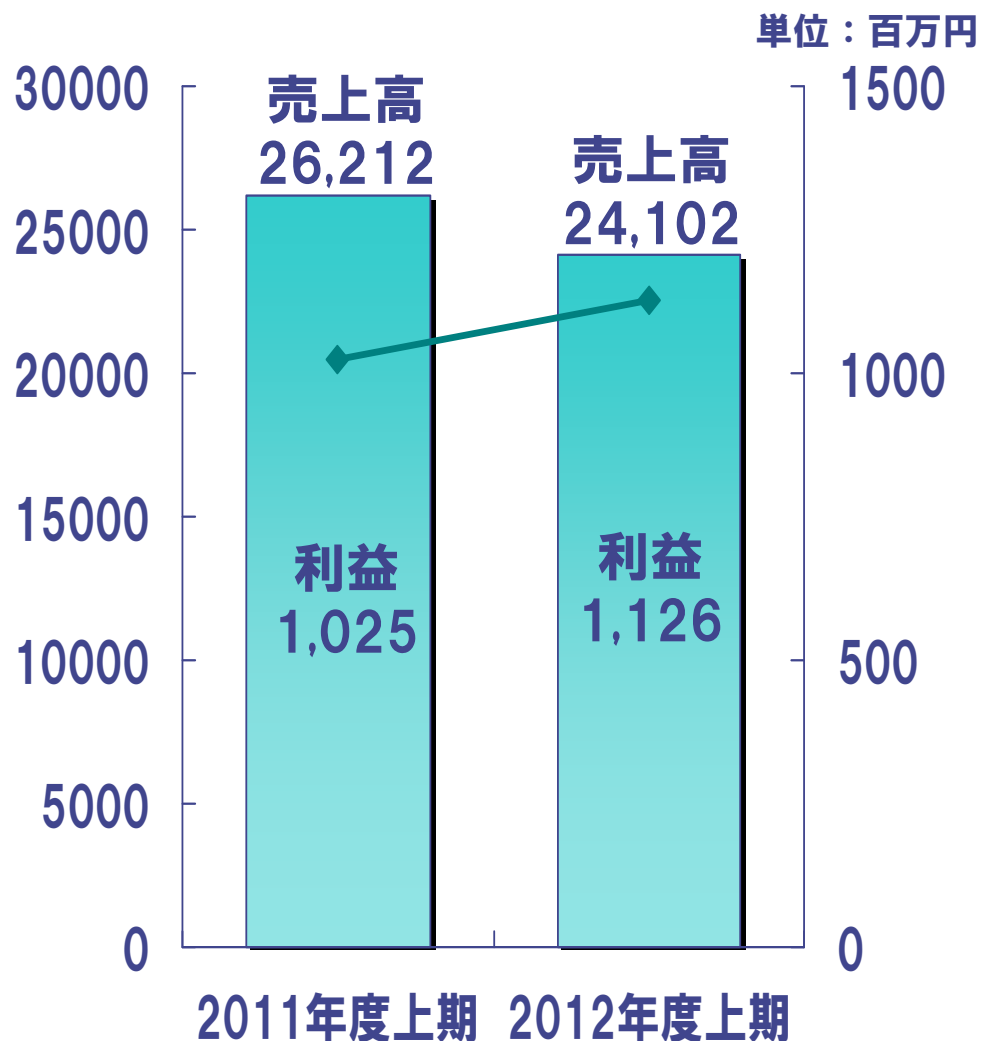
2012年度 上期
売上高 352億円



2012年度 上期
セグメント利益 10億円



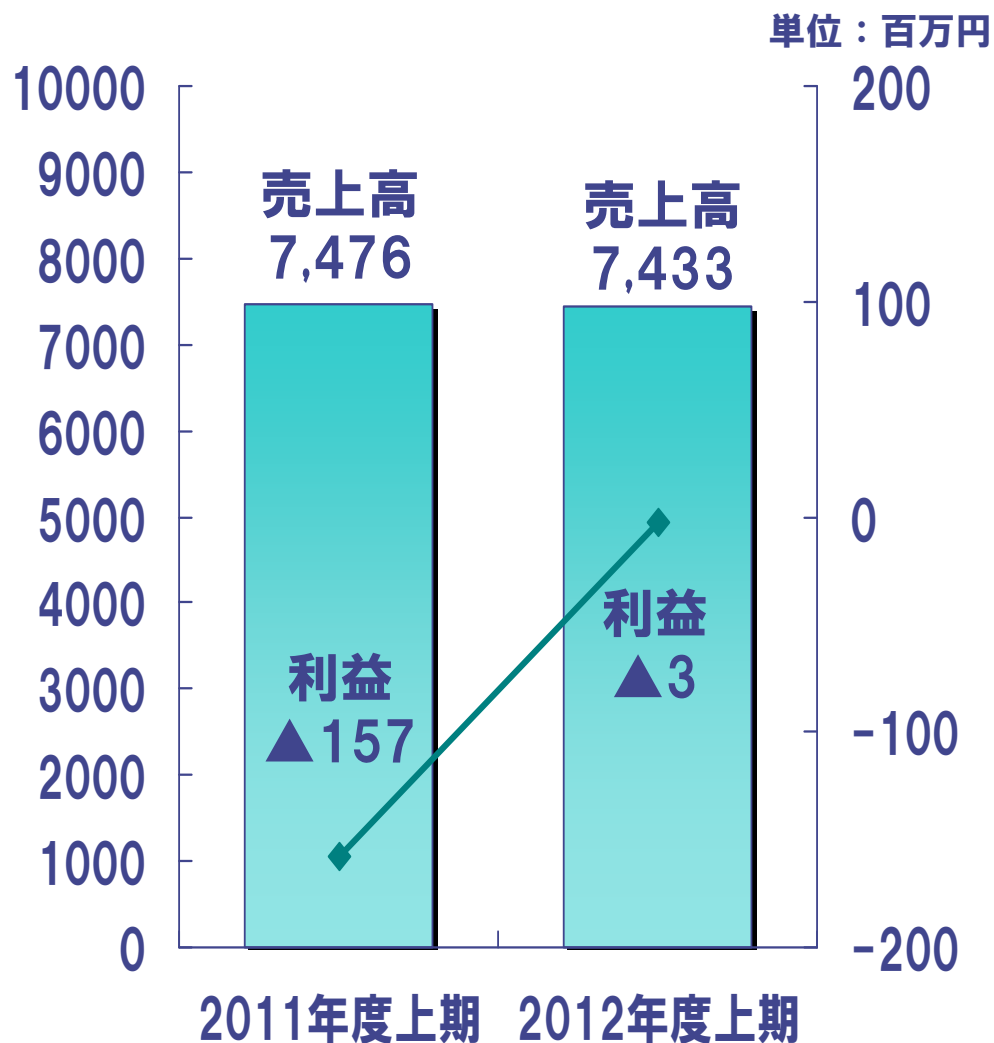
コンパウンド事業



2,110百万円減収 **101百万円増益**
 前期比8.1%減 前期比9.8%増

国内は塩ビが低迷も、自動車関連需要でエラストマーが順調に回復。
 海外は、タイの売上回復遅れを、中国・インドネシア・米国の子会社がカバー。
 原料価格の安定により増益。

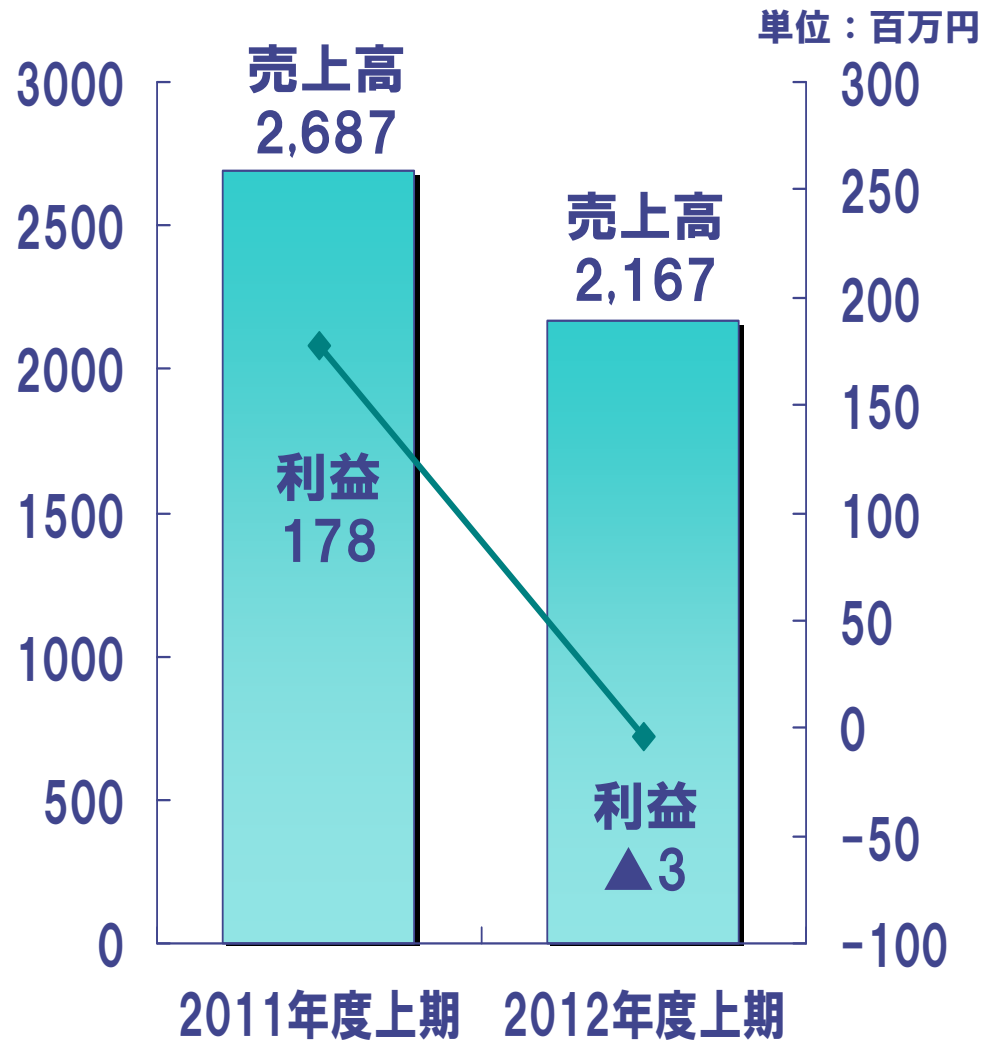
フィルム事業



43百万円減収 154百万円増益
前期比0.6%減

国内建装材市場はやや持ち直したものの、長期化する円高と欧州市場の低迷により輸出は減少。光学用途もTV市場の低迷により低調。売上は減少したものの、合理化の効果で損失は縮小。

食品包材事業



520百万円減収 **181**百万円減益
前期比19.4%減

震災特需のあった昨年から一転し、個人消費の低迷により競争が激化し、売上が低迷。中国事業は採算重視の戦略が功を奏し収益改善。

今後の展開について

**全員で困難を打開し、
必ず結果を残す**

スピード最優先し、果敢にチャレンジ

2012年度 通期の業績予想

単位：百万円、円

科 目	2012年度通期 業績予想	2011年度 通期	伸び率	中期経営 計画	達成率
売上高	75,500	75,222	+0.4%	80,000	94.4%
営業利益	2,000	2,353	▲15.0%		
経常利益	2,000	2,496	▲19.9%	5,000	40.0%
当期純利益	1,400	1,964	▲28.7%		
1株当り利益	23.15	32.32	▲28.4%		

【業績予想のポイント】

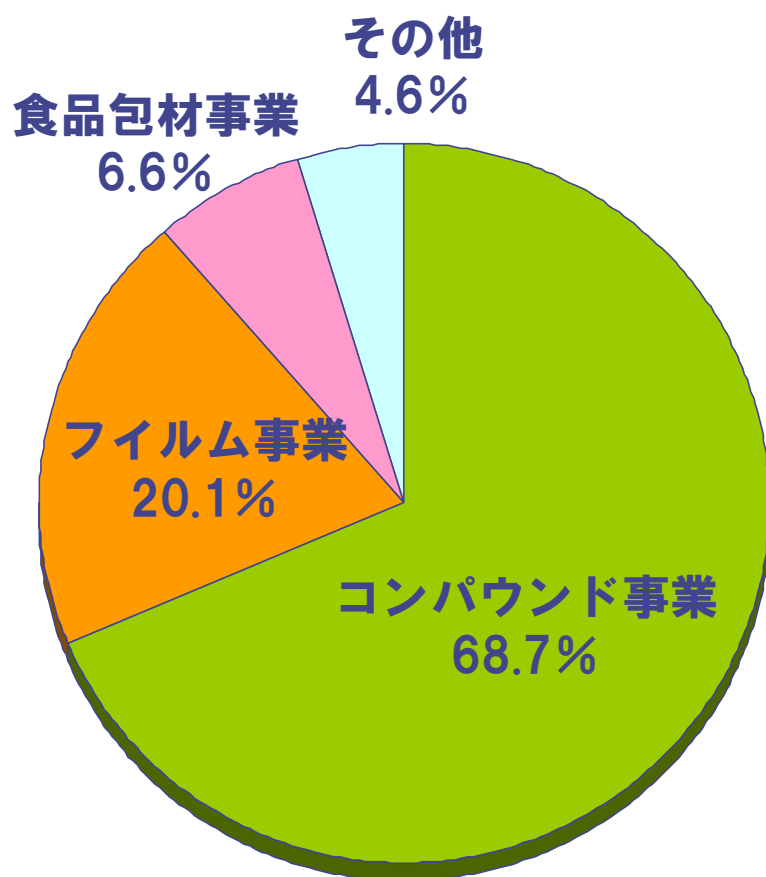
国内は復興需要は足踏み状態が続き、前年エコポイントの反落もあり拡大は期待できず。円高、中国向けの輸出停滞も懸念。

海外は欧州での景気停滞や、中国の日系自動車メーカーの大幅減産の影響大。

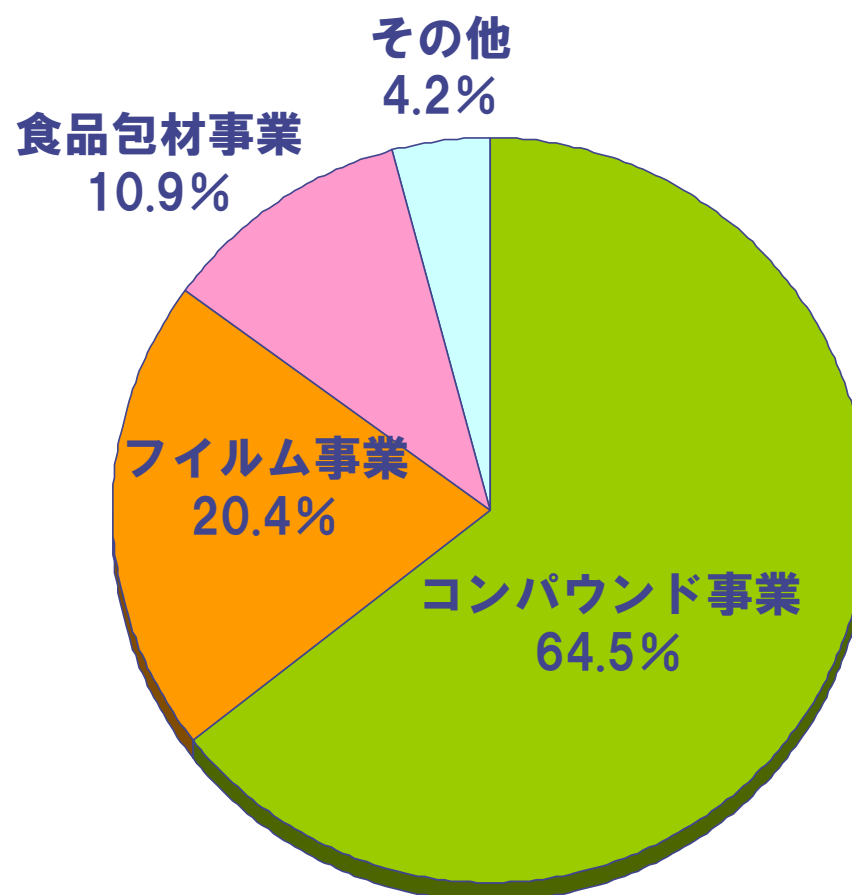
当初予想より売上、利益とも下方修正。

セグメント別業績予想 (売上高構成)

2011年度通期
売上高 752億円



2012年度通期 業績予想
売上高 755億円

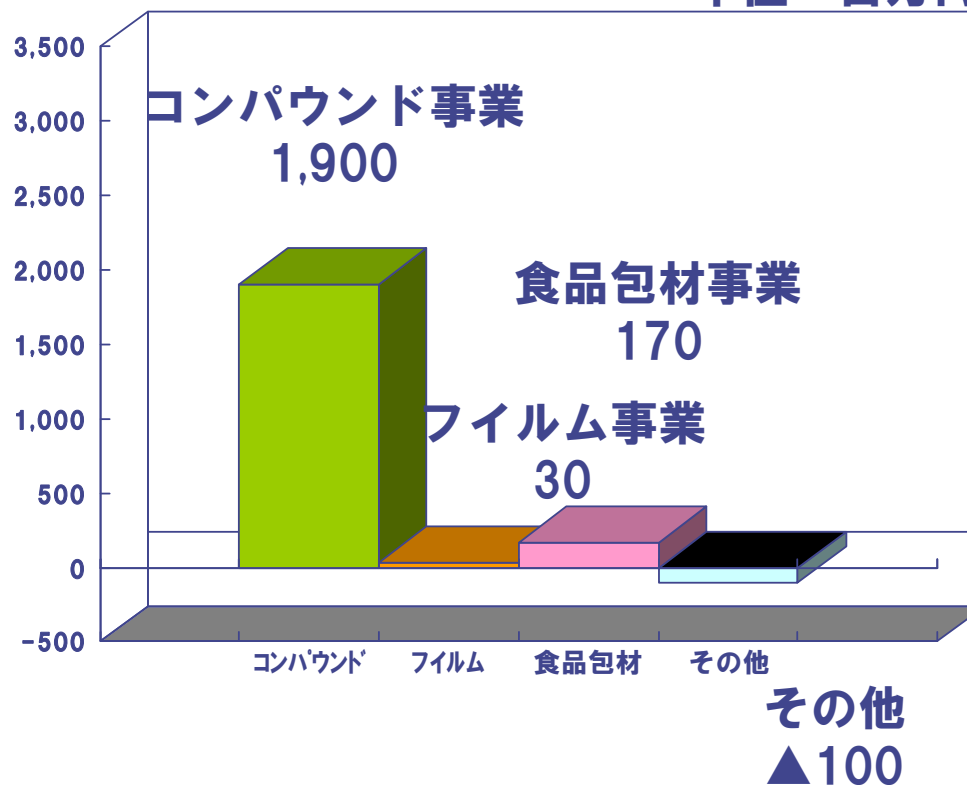
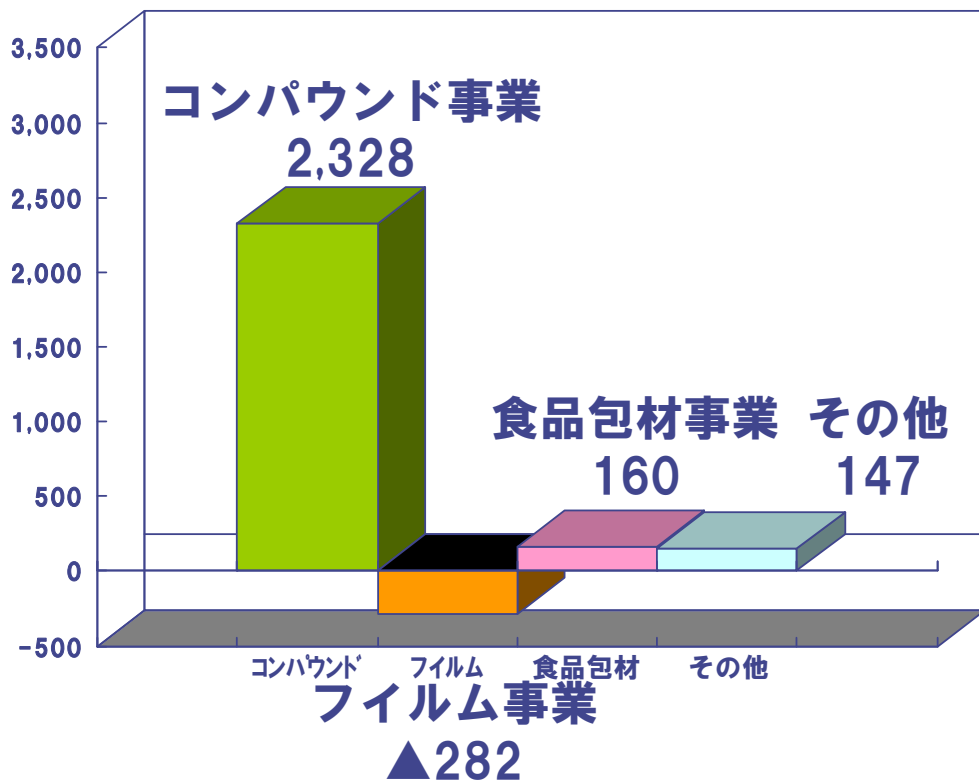


セグメント別業績予想（利益）

2011年度通期
セグメント利益 24億円

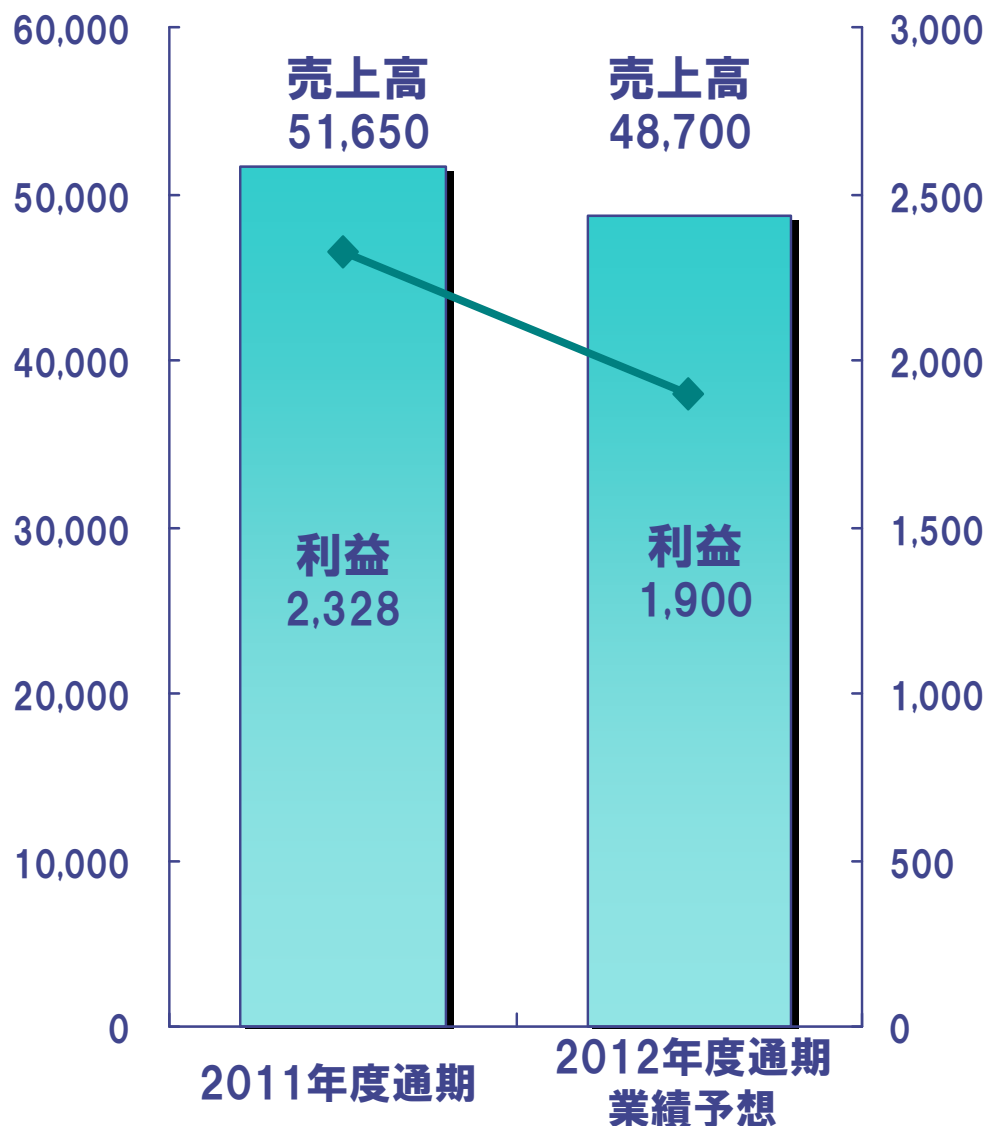
2012年度通期 業績予想
セグメント利益 20億円

単位：百万円



コンパウンド事業 今期計画

単位：百万円



2,950百万円減収 **428**百万円減益
 前期比5.7%減 前期比18.4%減

自動車関連は補助金の終了、中国での日系自動車メーカーの大幅減産等があり、不透明感が強い。

復興需要も足踏みが続き、建材関連は厳しい状況が続く。

リケンタイランドは商権奪回に全力で取り組む。

- 海外展開について

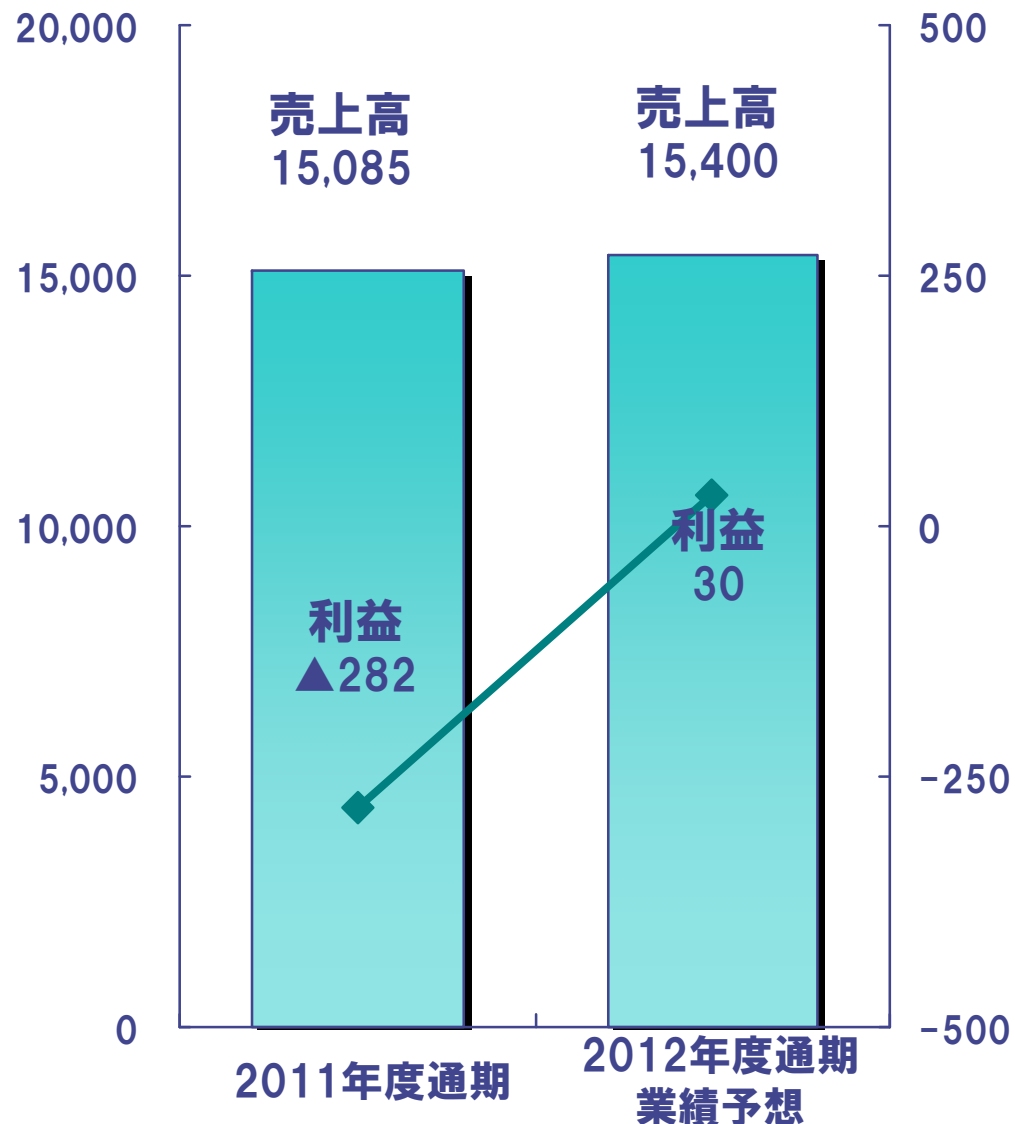
- ① RIKEN ELASTOMERS (THAILAND) 稼動開始
(2013年 2月)
- ② PT. RIKEN INDONESIA 医療用ライン増設
(2013年 5月)
- ③ 中南米への進出検討中

- 国内事業について

- ① 再生可能エネルギー向け電線用
- ② ハイブリッド・電気自動車向け部材用
- ③ 外注先を含めた生産体制の最適化

フィルム事業の今期計画

単位：百万円



315百万円増収 312百万円増益
前期比2.1%増

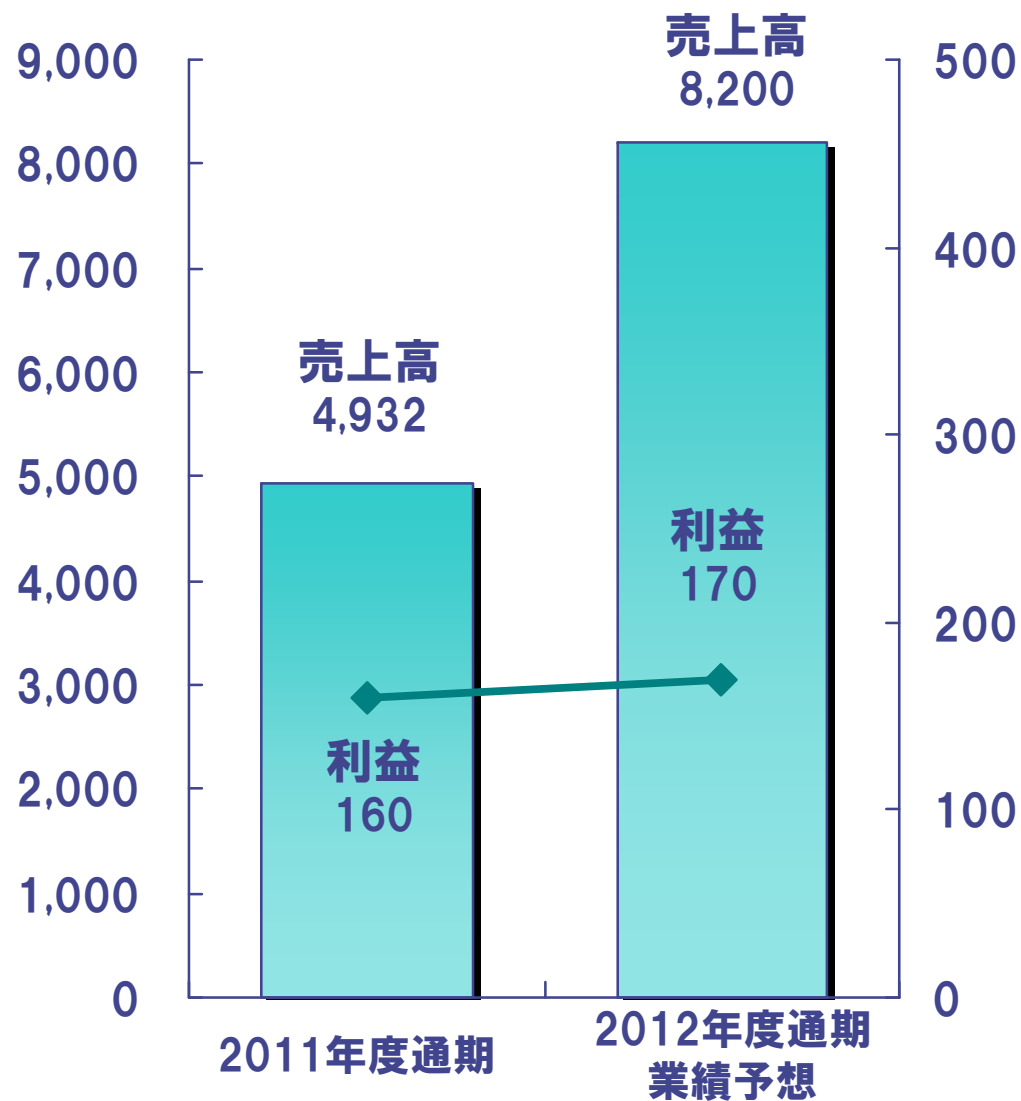
壁装材を中心とした、堅調な建装材分野において、商材の選択と集中、顧客ニーズの確実な取り込みで売上・利益を確保。
欧州景気の回復遅れによる輸出や光学フィルムは苦戦が続く。
成果を上げつつある生産集約をはじめとした事業再構築によるコストダウンの効果で、黒字化見込。

フィルム事業の来期以降の計画

- 事業再構築の更なる進捗による生産集約化及びコスト削減により、利益の出る体質とする。
- 主力である建装材市場において、商材の選択と集中により売上と収益を確保する。
- 新たな分野として、電池市場、農業市場への開拓に注力する。
- 末端顧客へのアプローチによる需要創造を図る
(ガラス用フィルム等)
- 引き続き海外の生産拠点を調査・検討する。

食品包材事業の今期計画

単位：百万円



3,268百万円増収
前期比66.3%増

10百万円増益
前期比6.3%増

リケンファブロとしての事業展開で大幅な増収、利益に関しては上期の失速や統合費用の影響があり微増。中国子会社は安定生産で黒字化達成の見込み。

リケンファブロ株式会社による事業展開

事業戦略

- ①国内市場トップとなる業務用塩ビラップは、販売量の強みを生かし、競合他社より優位な事業展開を行う。
- ②有力な販売チャンネルが多くなり、多様化するニーズに多種の商品群で対応し、売上増を目指す。
- ③リケンラップ、ハイラップの両ブランドは、すでに市場で確立されているため、当面2ブランドの販売を継続。
- ④生産体制の最適化によるコストダウン。

中期経営計画について

(2010年4月～2013年3月)

中期経営計画について

計数目標

	売上高	経常利益
目標	800億円	50億円
今期予想	755億円	20億円

中期経営計画の主要テーマ

①体質の改善

業務プロセス管理を含めた業務改革と人材育成

②高機能製品事業の拡大

③高収益化に向けた改革

技術・製造・営業が一体となって顧客のニーズに応える

④全事業のグローバル化

成長・拡大する地域でビジネスチャンスを確実に捕捉する体制

主要テーマ別の施策と成果

1. 体質の改善

- ・ 新経営理念「リケンテクノス ウェイ」の策定と浸透
- ・ 基幹システムの再構築

2. 高機能製品事業の拡大

- ・ 形状にとらわれない製品の拡販
- ・ 高機能フィルムの拡販

主要テーマ別の施策と成果

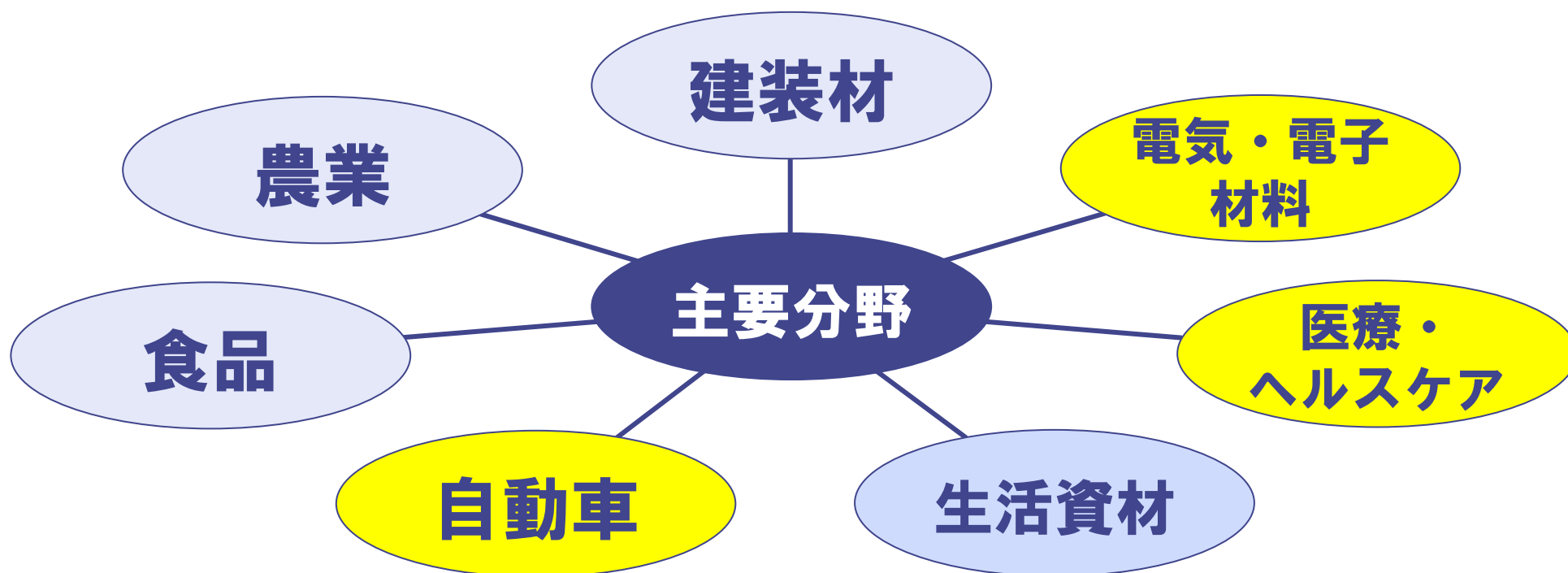
3. 高収益化に向けた改革

- コンパウンド生産体制の最適化
- フィルム生産ラインの集約化
- リケンファブロでの事業展開

4. 全事業のグローバル化

- 上海理研塑料有限公司の生産ライン増設
- PT. RIKEN INDONESIAの生産ライン増設
- RIKEN ELASTOMERS (THAILAND) CO., LTD.設立
- フィルム海外生産検討開始

徹底的な「マーケットイン」



次期中期経営計画について

・重点注力分野



自動車

- ・日本、米国、アジアの3拠点对応
- ・日系自動車メーカーから全自動車メーカーへ



電気・電子材料

- ・再生可能エネルギー事業向け電線
- ・電気自動車、半導体電子部品向け部材



医療・ヘルスケア

- ・少子高齢化による需要増加
- ・BCP対応強化による安定的な供給

株主還元

配当金

安定配当

(円、%)

	中間	期末	通期	配当性向	株主資本 配当率
2009年3月期	4.00	2.00	6.00	-	1.30
2010年3月期	3.00	3.00	6.00	27.6	1.24
2011年3月期	4.00	4.00	8.00	24.0	1.60
2012年3月期	4.00	5.00	9.00	27.8	1.71
2013年3月期 (予想)	4.00	5.00	9.00	38.9	1.77

※2013年3月期（予想）における配当性向及び株主資本配当率は、9月末現在で把握可能な数値にて試算しております。

ミッション

私たちは科学の力で
豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです
独創的で卓越した
樹脂素材の配合加工技術で
企業と人と社会に
新たな価値と喜びを提供し続けます

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経理部 前田